学校番号	1009

令和８年度　家庭科

教科	(専)家庭	科目	保育基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「保育基礎　ようこそ，ともに育ちあう保育の世界へ」　（教育図書）						
副教材等	「保育基礎　ようこそ，ともに育ちあう保育の世界へ」準拠ノート（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

〈このような人に向いています〉
- 幼稚園教諭や保育士など子どもと関わる進路を目指す人
- 子どもの成長や発達の過程に興味がある人，子どもを育てるうえでの基礎知識を身につけたい人

〈授業について〉
- 座学と実習を通して，専門的な知識を身に付けることをめざします。そのため，遅刻や欠席が多いと単位習得は大変難しくなります。

2　学習の到達目標

- 乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育に関する知識と技術を習得する。
- 子どもを取り巻く課題を発見し，保育を担う大人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- 子どもの健やかな発達を目指して学び，保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通じて知識を深めることができ、子どもを取り巻く問題について推測･考察が出来る。	子どもの発達の特性や発達過程などに関わる幅広い知識を身につけ、子どもの発達、行動、感情、生活などについての理解を深めることが出来る。これらに関する自身の考えをレポートなどで表現出来る。	子どもの身体的・精神的発達や保育に関して関心を持ち、それらを意欲的に学ぶ姿勢が見られる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1章 子どもの保育	①保育の意義 ②保育の環境 ③保育の方法	a：家庭での養育と集団保育の役割を理解している。保育所や幼稚園、認定こども園における保育・教育の特徴を理解している。 b：現在の子育て家庭が集団保育に求めていることについて、子育て環境の変化などと関連させながら具体的に考察することができる。 c：保育の意義について，自分自身が親や保育者になることを考えるなど，自分の人生観と結びつけて考えようという姿勢が見られる。	定期考査 準拠ノート ワークシート	定期考査 準拠ノート ワークシート	提出課題 授業観察
	5章 子どもの文化	③子どもと遊び	a：子どもの健やかな発達が遊びによってもたらされることを理解している。 b：おもちゃづくりなどの活動を通して、子どもが楽しく安全に遊ぶことができるように工夫することができる。 c：・おもちゃ作りなどの活動を通して、子どもの遊びの特徴や、保育者としての適切なかかわり方を模索している。	定期考査 準拠ノート ワークシート	定期考査 準拠ノート ワークシート	提出課題 授業観察 制作物 実習レポート
	巻末	保育実習に行ってみよ	b：保育実習において、子どもの発達や生活の特徴を調査・観察し、まとめたり発表したりすることができる。 c：保育実習において、子どもの発達段階や生活の特徴を意識しながら、積極的に子どもとかかわろうとしている。		実習レポート グループ活動 発表	実習レポート グループ活動 発表

2学期	3章 子どもの生活	①子どもの健康と生活 ②子どもの食事 (調理実習を含む) ③子どもの衣服と寝具 ④子どもの健康と安全	a: 子どもの養護の必要性について理解し、その発達段階に応じた適切な養護や生活援助のための技術を身につけている。乳幼児期の食生活の特徴や、発達に必要なエネルギー・栄養素などについて理解している。家庭など、子どもの生活のなかで起こりうる事故の特徴を知り、適切な応急処置の方法を理解している。 b: 現代の子どもの食生活の変化について、健康や生活習慣に関する課題を見つけ、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。 c: 自身が保育者になることを想像しながら、子どもたちの自由な生活を確保しつつ事故を防ぐにはどうしたらよいかなど、自分ごととして課題に取り組もうとしている。	定期考査 準拠ノート ワークシート	定期考査 準拠ノート ワークシート	提出課題 授業観察 制作物 実習レポート
	4章 子どもの発達	①子どもの発達の特性 ②乳幼児の発育と発達	a: 子どもの発達の共通性・個別性について理解している。子どもの発達は、身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。 b: 月齢・年齢ごとの子どもの心身の発達の様子を理解した上で、子どもの個人差を考慮した適切なかかわり方を考察し、具体的に提案することができる。 c: 自身が保育者になることを想像しながら、子どもの心身の発達を促し、子どもの気持ちに寄り添うにはどうかかわるべきかなど、主体的に捉えようとしている。	定期考査 準拠ノート ワークシート	定期考査 準拠ノート ワークシート	提出課題 授業観察

3学期	4章 子どもの福祉	①保育に見る児童観 ②児童福祉の理念と法規･制度	a: 児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にかかわる施設の役割について理解している。 b: 児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。 c: 人権の観点から児童福祉に関する考え方や法律・制度・機関等について興味関心を持っている	準拠ノート ワークシート	準拠ノート ワークシート	提出課題 授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度